

INTERVIEW

大塚拓に聞く

子育て支援、介護問題……

あなたのために。 日本のために。 全力でたたかいます。



今年6月、妻・珠代さんとの間に、男児が誕生した大塚拓さん。はじめての子育てを経験しながら、いま、何を思い、どんなことを感じているのか、お話を聞きました。

「日本に生まれてよかった」と思える世の中に

——お子様が誕生したそうですね。おめでとうございます。

大塚 どうもありがとうございます。今年の6月26日に、待望の第一子が誕生しました。予定日より遅れての出産でハラハラしましたが、無事に生まれてきてくれてホッとしました。多くの方にお祝いの言葉をいただき大変ありがたく思っています。妻の頑張りに、本当にただただ頭の下がる思いでした。

長男は順調にすくすくと育っています。彼が日々成長していく様を見ていると、我が子ながら、「人」の尊厳、すごさのようなものを感じずにはられません。

——お子様ができて、何か変化はありますか。

大塚 私は常々「日本の未来を背負う子どもの世代につけを残さない政治をしなくてはならない」と訴えてきました。

民衆の心をつかむために行う一時の場当たりの政治上の対応が、どれだけ罪つくりか。ちょっとした負担や過ちも、日々積み重なっていけば、いつしか大きな負担になっていくものです。私たち夫婦も子どもを授かり、彼らが「日本に生まれてよかった」と思えるような世の中にしなくては、と思いを新たにしているところです。

——子育てをされていて、何か感じることはありますか。

大塚 保育園数の充実や、子育てをするお母さんの支援など、保育環境の整備の必要性については、自分が実際に子育てをしてみて、あらためて感じています。

元々一政治家として「やらなくては」と思っていたことが、子育てをする親としての視線が加わって、より深くさまざまな面が見えてきたと実感しているところです。

笑顔で夢を語り合える国に

——一方でお父様の介護も経験されているそうですね。

大塚 私は、父が年をとってから生まれた一人息子です。父が倒れてからは、私も介護を手伝いましたが、基本的には母による老々介護ということになりました。在宅での介護という形を選びましたが、訪問医不足の問題、介護ヘルパーの確保など、さまざまな問題に直面してきました。

——それは大変な経験ですね。

大塚 もちろん、介護をすることは自分の家族ですから当然のことなのですが、言葉できれいごとはいろいろ言えても、本当の難しさはやはり経験してみないとわからないと思いました。

いま、日本もさまざまな困難を迎えています。私は政治を志す者として、その問題と真剣に向き合い、あらゆる角度から熟慮して、ものごとを判断する訓練を積んできました。しかし、私に見えていない部分はあるということを常に忘れないようにしなければ、と思っています。謙虚な気持ちをもって、多くの方々の言葉に耳を傾け、その上で、最良と思える方向を切り拓き導けるように、全力を注ぎたいと思います。

——父親としてのパワーがみなぎっているように感じます。

大塚 父親として、また一つ大きな責任を背負うことになりました。この子が大きくなったとき、日本が平和で、豊かで、誇りをもてる国であり続けられるか……。日々、常に考えさせられる問題であり、あらためて、いまの政治に課せられた数々の課題の重要さを考えさせられます。そのためにも、早く政治の現場でバリバリ仕事をしなければと思っています。

いま、日本社会の疲弊した空気を感じています。

政治の道を歩む者として、目の前に山積しているさまざまな課題を迅速に解決しながら、この閉塞感を打破したいと思っています。そう願ってみなさんと力を合わせれば、老若男女誰もが、笑顔で夢を語り合える国にできると信じています。